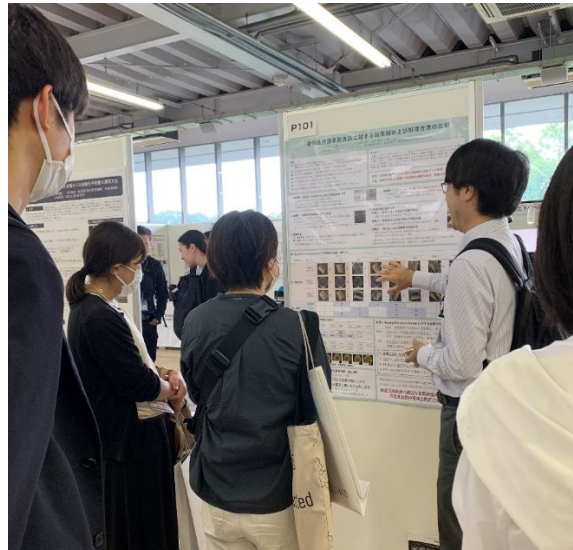


絵画など美術品に生えたカビの殺菌方法を発表

当社研究員が「文化財保存修復学会」で研究成果を説明



当社、環境微生物研究室研究員の小田尚幸が、6月22日～23日に開催された「文化財保存修復学会第46回大会」で絵画など美術品や貴重な文化財に付着したカビの殺菌方法などについて発表を行いました。

美術館や博物館の収蔵品のカビによる劣化は、我が国の歴史的・文化的価値の毀損とも言えます。当社研究室では、カビの防除方法の調査研究を行っており、この知見を共有し、文化財や美術品の保護、修復に役立てたいと考え、同大会での発表を行いました。

小田研究員は、「美術品汚損原因真菌に対する殺菌剤および処理方法の比較」を演題に、油彩画を汚損しているカビ2種類に対する2種類の殺菌剤の効果について調査し、殺菌剤の有効性や効果的な使用方法などの考察結果を説明しました。

文化財保存修復学会(理事長:本田光子/東京都台東区)は、文化財の保存に関わる科学・技術の発展と普及を図ることを目的に1995年に設立。現在、文化財保存の基礎研究を行う研究者、修復家、美術館・博物館の学芸員など、1177人が会員として参画しています。

同学会46回大会では、会員ら関係者が参集し、美術品修復等についての活発な意見交換も行われました。来場者からは、「収蔵品へのカビ汚染が不安なので、カビの殺菌に関する発表は大変助かった」、「殺菌剤やカビの生えた物質の違いによる除去方法をさらに研究してほしい」といった発表に対する評価や要望の声が聞かれました。

当社では、『生活者が安心できる未来の実現をめざす』理念のもと、引き続き公共の利益に資する研究・サービス開発に努めてまいります。